

水防活動

～自らの地域を自らの手で守る自衛の減災活動～

河川管理者が実施する治水施設の整備と、市町村・地域住民が実施する水防活動により、浸水被害を防止・軽減しています。



「月の輪工法」の演習



おっぺ こま 越辺川・高麗川水害予防演習



おぼ 溺れている人を救助する水難訓練

水防活動とは

川が大雨により増水した場合に、堤防の状態を見回ったり、危険なところを発見したら堤防が壊れないように対策を行い、被害を防いだり軽減したりすることを水防活動といいます。活動の中心となるのが水防団で、浸水被害が起こりそうな時には、それぞれの状況に応じた水防工法によって堤防への被害をくい止められるよう、いざという時に備えて水防演習に取り組んでいます。

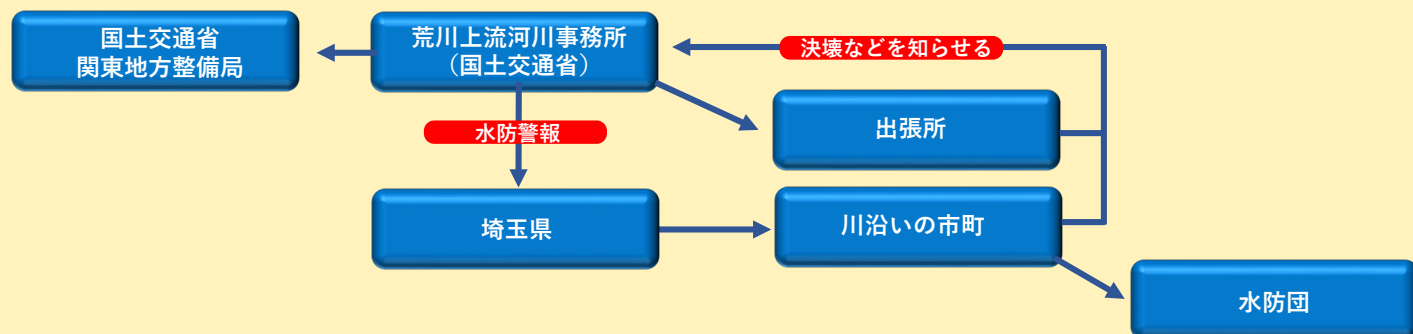
河川管理者が実施する治水施設の整備と市町村・地域住民が実施する水防活動が「車の両輪」となって洪水被害の拡大を防いでいます。

水防活動の内容

大雨が降り、洪水が起こるおそれがある時、災害を防いだり大きな被害が起こらないようにする活動を「水防活動」といいます。洪水時の川の水位に合わせて荒川上流河川事務所から水防警報が発表され、それぞれの地域の水防団が水防活動を行います。

水防団は、洪水が起きそうな時に、堤防や水害が起きそうなところの監視を行います。堤防がひびわれたり、決壊しそうな時には、いろいろな方法によって、それを防ぐ作業を行います。

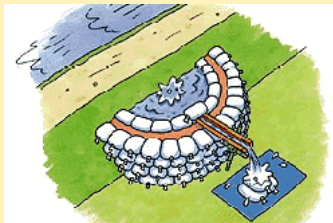
また、地域の住民に避難するよう連絡することも大切な仕事のひとつです。



堤防への被害をくい止める水防工法

月の輪工法

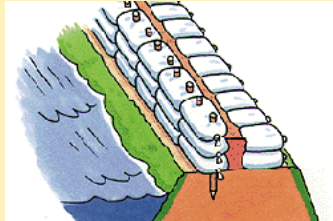
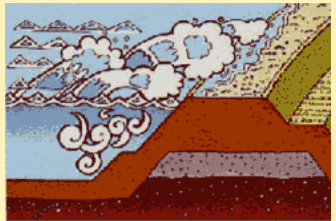
堤防の裏側などに漏水した水が噴き出している場合



土のうを半月型に積み、鉄の杭などを刺し補強します。その中に水をため、その水圧で水が漏れることを防ぎます。堤防に近い場所での漏水に用います。

積土のう工法

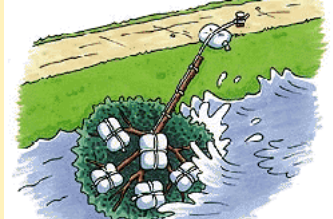
増水した川の水が、堤防を越えそうな場合



堤防の川側の縁に土のうを積み上げることで、川の水が堤防を越えることを防ぎます。補強のため、鉄の杭を刺します。

木流し工法

強い川の流れで堤防が削られている場合



重し土のうをつけた枝葉の多い木を堤防の削られているところへ流し入れることで、あたる水の勢いを弱め、堤防が崩れるのを防ぎます。

水防団が抱える課題

水害を未然に防止し、被害を最小限に食い止め、私たちの生命や財産を守る貴重な役割を担う水防団。その水防団員数は年々減少しており、団員の高齢化も進むなど、地域防災力の低下が懸念されています。

水防活動の充実を図るためには是非とも皆様方のご協力が必要です。水防団への入団を考えられている方は、お住まいの市町等へお気軽にお問い合わせください。



吉見町水防訓練の様子 (H28.5.28)